

航行警報ビジュアル化について

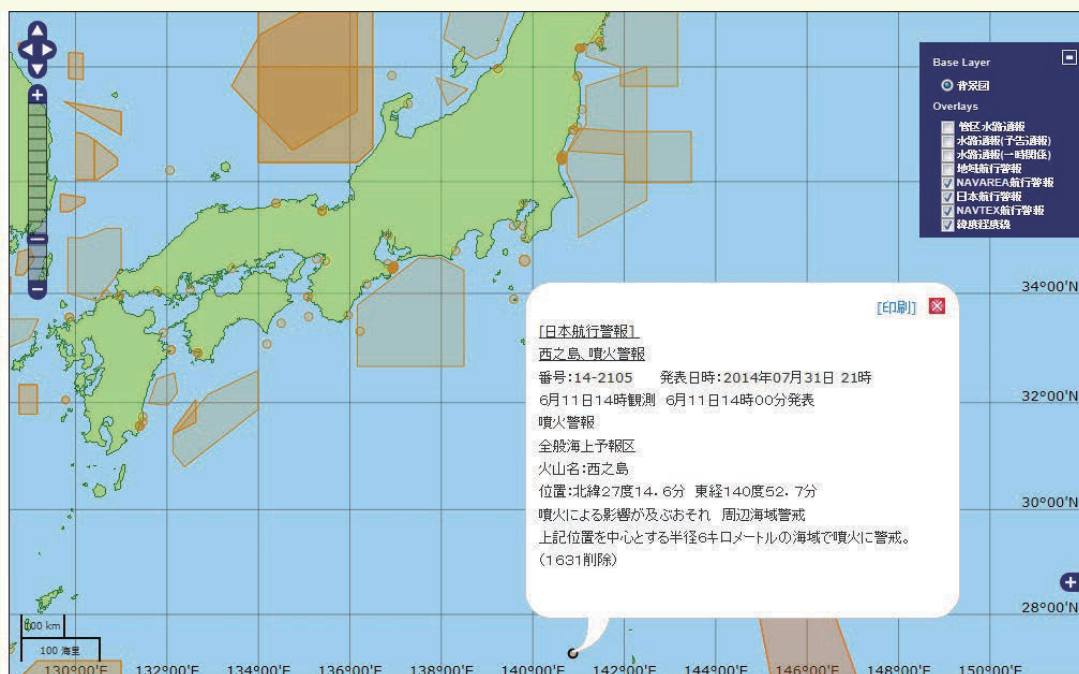
【ビジュアル航行安全情報の提供開始】

航海中の船舶に対して緊急に周知する必要がある情報については、従来、文字による航行警報を发出していた。東日本大震災では、地震津波により多数の航路標識が倒壊、流出し、また大量の漂流物が発生したため、膨大な数の航行警報が発出された。この結果、利用者にとっては、自船に関する航行警報を選別する作業が煩雑となり、重要な情報を見落としてしまうケースも懸念された。このような状況から、毎日更新した航行警報をインターネットで図示して提供したところ、利用者から「分かりやすい」「利用しやすい」と好評を得た。

海上保安庁ではこの経験を活かし、平成26年6月から航海安全情報をインターネット上にビジュアル掲載するシステムを構築し、日本が世界に先駆けて提供を開始した。

〈利便性〉

- ビジュアル化により危険箇所の把握が容易。
- 位置確認のための海図転記作業が少なくなることによる誤認防止。
- 複数の情報の中から期間を指定することにより、その間の有効な情報の表示が可能。
- 自船の位置を入力することにより、危険海域内外の把握が一目瞭然。
- 利用者が個々に必要とする範囲の拡大・縮小が可能、さらに印刷も可能。
- 針路上における危険海域をあらかじめ把握でき、自船に必要な情報だけ入手。



■ビジュアル情報ホームページ

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/vpage/visualpage.html>